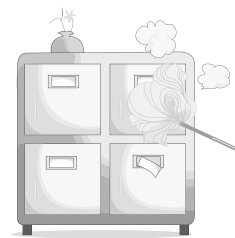


●年末の大掃除はお早めに！
年末の大掃除は、計画的に始めるようにし、発生したごみなどはルールを守り、正しい分別をしてください。皆さんのご協力をお願いします。



●可燃ごみの減量にご協力を

海老名市で発生する可燃ごみの焼却は、座間・綾瀬両市の分と合わせ、市内本郷地区の高座清掃施設組合で行っています。このごみ処理経費は、3市から拠出される分担金で賄われています。

平成22年度中に海老名市民が排出した可燃ごみ量は、1人1日当たり440^g。ここから12^gを減量できれば、同組合への分担金が年間で1000万円以上減らせる計算になります。可燃ごみの減量にご協力ください。

●今日からできる減量策は？

現在出されている可燃ごみのうち、資源になる紙類(※1)が12・6^g、容器包装プラスチック類(※2)が8^g含まれています。これらは可燃ごみとして出さずに、分別し定められた曜日に出してください。

また、可燃ごみの重量の半分以上は生ごみです。生ごみはほとんどが水分。ごみとしてまとめる時は、「ギュッ」と一搾りを心掛けましょう。たったそれだけで、5^g程度の減量をすることができます。家庭用の生ごみ処理機の利用も効果大です。処理機の購入には、補助制度があります。詳しくはお問い合わせください。

気持ちの良い新年を迎えるために…

ルールを守って早めの大掃除を

いっしょがけましょう



- 動物に荒らされない3つの工夫
 - ①ごみが狙われる時間を短くするため、日の出から8時30分までの間にごみを出す
 - ②ネットを利用の場合は、めくり上げられないようにしっかりとかぶせておく
 - ③生ごみは水を切って臭気の発生を抑え、新聞紙などで包み中身を見えにくくする
- 特定家電製品は回収しません
不要となった特定家庭用機器(冷蔵庫・エアコン・テレビ・洗濯機など)は、市では回収しません。家電の販売店などに引き取りを依頼してください。なお引き取りの際は、リサイクル料金が必要となるほか、収集運搬料がかかります。場合があります。

ごみ・資源の収集は、12月31日(土)から 1月3日(火)までお休みします

そのほかの日は通常通り収集します。各地区の収集曜日をご確認の上お出しください。
また、収集が終わった後に、ごみ収集所にごみや資源を出すことはおやめください。
年末年始はごみの量が増えるため、収集時間が大幅に遅くなることがあります。

日	月	火	水	木	金	土
12/25	26	27	28	29	30	31
				粗大ごみの持ち込み休み(～1/3まで)		
						ごみ・資源の回収休み(～1/3まで)
1/1	2	3	4	5	6	7
粗大ごみの持ち込み休み(～1/3まで)						
ごみ・資源の回収休み(～1/3まで)						

●粗大ごみについて

家庭から出るごみで1辺の長さ1^m以上、縦・横・高さの合計が2^m以上、重さが30^{kg}超の「粗大ごみ」は、右の方法により有料で受け付けします。

持ち込みの場合	平日 9時～16時、(土)(日)(祝) 9時～12時、1点300円。 住所・本人など確認の上、受け付けします。
収集の場合	平日 8時30分～17時15分、事前に電話で申し込みを。1点700円。市役所売店・市内コンビニなどで販売されている粗大ごみ収集シールを貼付する。ただし、建物・工作物の解体や交換修理などを依頼したことで出た畳・浴槽・風呂釜・流し台・キッチンカウンター・洗面台・建築廃材などは、業者などへ処理を依頼してください。

美化センターで受け付けます

粗大ごみ	戸別収集は年末は26日(月)まで収集。定数になり次第締め切ります。 年始は4日(火)から美化センターへ申し込んでください。 持ち込みは28日(火)まで、年始は4日(火)から美化センターで受け付けます。
し尿・汚水	年末は27日(火)まで収集、年末の申し込みは16日(金)まで、年始は4日(火)から収集。 美化センターへ申し込んでください。

問い合わせ 資源対策課 ☎(235)4922、美化センター ☎(231)3366

●事業系ごみは適正に処理を
店舗・事務所・工場などでの事業活動で発生するごみは、事業系ごみです。
事業系ごみは、産業廃棄物と一般廃棄物で、処理方法が異なります。詳しくはお問い合わせください。
事業系ごみは、事業者が自らの責任で適正に処理することが法律で義務付けられています。家庭ごみの集積所には出せませんので、ご注意ください。

※1【紙類】段ボール・新聞紙・折込チラシ類・裏が白色の飲み物の紙パック・ミックスペーパー(包装紙・お菓子の紙箱・ティッシュペーパーの箱など)です。年間約1200^{kg}が、ボール紙などに再生されています。
※2【容器包装プラスチック類】菓子パンの袋・レジ袋・食品トレイ・卵パック・ヨーグルトなどのカップ・発泡スチロールなどです。年間約1500^{kg}が、工業用燃料などに再利用されています。